言葉は人なり

「どんな言葉を使うか？」によって、その人の生き方が決まります。大げさに聞こえるかもしれませんが、私の経験上、たぶん間違いないです。何人かの著名（ちょめい）な方も同じようなことをおっしゃっています。　＊著名　世間に名が知られていること

皆さんのまわりの人を思い浮かべてください。丁寧な言葉を使う人は、丁寧な性格で丁寧な人生を送っています。乱暴な物言いの人は、なにかと人と衝突（しょうとつ）しています。元気よくハキハキ話す人は明るい印象をまわりに与えているのではないでしょうか。発せられた「言葉」で、まわりの人は意識的に、あるいは無意識のうちに、その人を判断し、自分にとってどういう存在なのかとふるいにかけているのです。

私が、「言葉は人なり」であり、言葉とは人そのものであることを知ったのは、学校の先生になり、だいぶ経ってからのことでした。遅すぎたと思います。もう少し早く、このことに気づいていれば、生き方が少し変わったかもしれません。

思ったことを、そのまま口に出すタイプの人がいます。これは、気をつけたほうがいいかもしれません。人を好きになるのも、嫌いになるのも言葉からなのです。外見とはただの器（うつわ）のようなもので、中身を埋（う）めるのは言葉です。言葉とは人そのものです。

今までの人生を振り返ると、「ああ、言わなければよかった」と悔やまれる言葉があります。ずっと、心に残っています。思い返すと、自分という存在が嫌になってくることもあります。

しかし、もう取り返しがつきません。一度、口から出た言葉は訂正（ていせい）できないのです。「今の言葉はなかったことにします」と言ったところで、すでに相手の心は動いているわけです。相手の気持ちまでは、なかったことにはできません。

自分から発せられた言葉は自分そのものです。まさに分身（ぶんしん）のようなものです。そのことに気づくのは、若ければ若いほどいいと思います。皆さんは、中学生ですから、考えることができるでしょう。

私の場合は、小学校、中学校、高校、大学と、言葉に関して、特に考えてこなかったと言えます。その結果、自分の生き方が決まってしまいました。だれも、そんなことを教えてくれる人はいませんでした。もしかしたら、教えてくれる出会いはあっても、人の話を聞く気がなかったのかもしれません。それを、だれも教えてくれなかったと言っているだけなのかもしれません。

人が生きていくうえで、「どんな言葉を使うか」ということは、とても重要なことです。言葉とは、その人自身であり、自分の生き方を人に伝えるものなのです。言葉が自分だと思えば、その使い方を考えるようになるでしょう。

皆さんには、言葉と向き合い、言葉とともに自分の生き方を考えていくような人生を歩んでいってほしいと思います。